

<全体分析>

試験時間 2科目で150分

解答形式

客観式10個(選択式6個, 記述式4個), 論述式19題(1行×4, 2行×10, 3行×5, 計39行)

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

客観式の解答数は10個減少して10個となったが, 論述問題の数は昨年度の16題から3題増加し, 行数も3行増加したため, 分量に変化はない。内容的には, 書きにくい論述問題も含まれるが, 頻出のテーマが多く, 全体の難易度は昨年度と大きな変化はない。

出題の特徴

さまざまな地図と地理情報を扱った主題図が近年多用される傾向にあるが, 本年度は第1問で野生動物に由来する人獣共通感染症の発生リスクを示した図, 二つの時代(帆船時代と現在)の船の航路の図が出題された。自然と人間活動の関係, 温暖化の進行にともなう問題点, 運河開通による航路の変化, 日本の産業構造の変化, 日本の農業など, これまでの東大本試で問われた内容が切り口を変えて出題されている設問もあり, 過去問の学習が必要である。

その他トピックス

2015年に出版されて以来, 地形図を用いる問題が出題された。第2問設問Aのアメリカ合衆国の州別の人口変化率は, 第2回東大オープンで扱った。第2問設問Bのブラジルの内陸開発は, 夏期講習東大地理の第4講で扱った。第3問設問Bの日本の農産物輸出は, 直前講習東大地理テスト第1講で扱った。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	記述式 論述	世界規模の事象 と分布	人獣共通感染症に関する設問Aの(3)は自然環境と生業の観点からまとめるのがやや難しい。船の航路に関する設問Bの(3)は指定語句の「等角航路」が最短距離ではないことに気づこう。もう一つの指定語句の「高緯度」はどう使うのか悩ましい。	標準
第2問	選択 論述	南北アメリカの 経済と社会	アメリカ合衆国の人口変化率に関する設問Aは, いずれも比較的书きやすく, 確実に得点したい。ブラジルの地域差に関する設問Bの(4)は, 発展途上国の都市問題を念頭に置いてまとめよう。	標準
第3問	選択 記述式 論述	日本の都市と農業	設問Aの(2)は, 地形図から流通センターを読み取ることは難しいが, 問題の「東京都心から30kmに位置する」や「高速道路のインターチェンジ」などの記述もヒントになる。設問Bの(4)は, りんごの栽培適地についても触れておきたい。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 客観式問題での得点が合否にかかわるため, 教科書や共通テスト(センター試験)の過去問などで基本的知識を習得しておきたい。
2. 指定語句を使ったり, 資料から判読できることをもとにコンパクトにまとめることが求められているので, 60字程度の短い論述演習を繰り返しておこう。総字数も多く, 限られた時間で論述する力を身につけておきたい。
3. 統計を解釈する問題が頻出しており, 統計のもつ意味をきちんと理解した学習が求められる。
4. 日本の変化に関する問題が頻出であり, 「高度経済成長期」, 「石油危機」, 「円高」, 「バブル崩壊」, 「都心回帰現象」, 「知識経済化・情報社会化」など, 時代を理解するキーワードをもとにそれぞれの時期の特徴を理解しておきたい。
5. 日本に関しては, 具体的な地域についての知識よりは, 大都市圏と地方圏, 大都市圏内の都心と郊外, 地方圏における中心都市など, 機能からみた地域の特徴を把握しておきたい。
6. 地形については, 地形図だけでなく, 標高分布図や地形区分図などの図が出題されることも予想される。典型的な地形の地形図から具体的な地形がイメージできるようにするとともに, 新旧地形図の比較も練習しておこう。